

東北のグローバル港湾 「仙台塩釜港」



仙台塩釜港について

仙台塩釜港は、仙台港区・塩釜港区・石巻港区・松島港区の4つの港区からなり、2012年(平成24年)10月に当時の国際拠点港湾仙台塩釜港、重要港湾石巻港、地方港湾松島港の3港統合により誕生した国際拠点港湾です。

宮城県の実貿易総額のうち、およそ9割が仙台塩釜港(仙台港区)で取引されており、石油タンカーをはじめ、国際コンテナ船や京浜港を経由する国際フィーダーコンテナ船により、100か国以上の国々と結ばれています。また、東北への自動車関連産業の集積が進んでおり、完成自動車等の移出入拠点としても重要な役割を担っています。

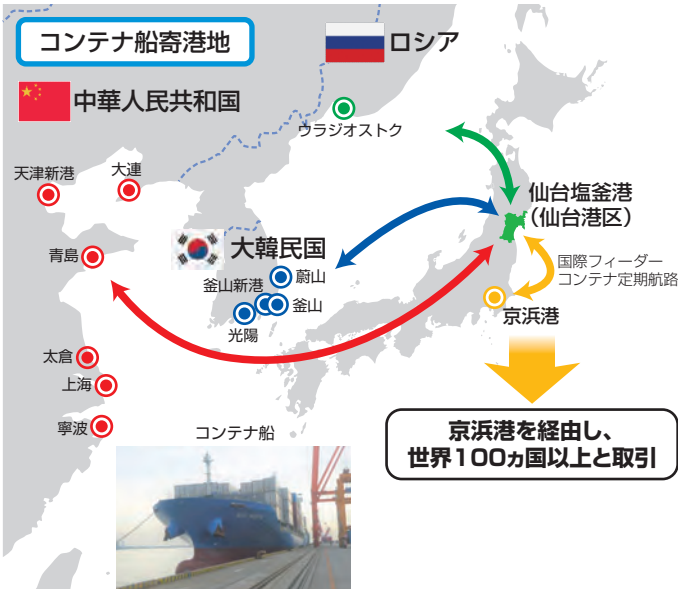


仙台塩釜港(仙台港区)紹介映像▶
動画視聴サイト YouTube



定期航路 (令和8年3月1日現在)

仙台塩釜港(仙台港区)には、中国・韓国航路、韓国航路、中国航路、極東ロシア航路の4つの国際コンテナ定期航路のほか、京浜港(東京・横浜)とを結ぶ国際フィーダーコンテナ定期航路が開通されています。また、フェリーやRORO船、自動車運搬船が毎日寄港しており、安定した物流供給を行っています。



京浜港を経由し、
世界100か国以上と取引

定期航路の詳細はこちら▶▶▶
仙台国際貿易港整備利用促進協議会HP



仙台塩釜港の貨物動向

仙台塩釜港における2024年(令和6年)の取扱貨物量(速報値)は、4,084万トンとなりました。各港区における主要貨物は、仙台港区はフェリー貨物・完成自動車、塩釜港区は石油・セメント、石巻港区は木材チップ・石炭です。

